



川村ひろあき県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

2月予算委員会

災害時インフラ管理、産業分野に 効果的なドローンの活用を

昨年4月の選挙で、千葉市議会から県議会へ歩みを進めた川村博章議員は、2月の予算委員会に登壇し、ドローンの活用や交通施策について、花見川のかまちづくりや特別支援学校の新設についてなど、多項目にわたって県民・市民の立場から県執行部の考え方をたしました。その概要をお伝えします。

川村議員 本県では本年度から防災用ドローンの運用を開始しており、これまで台風13号の接近に伴う大雨などの災害において、情報収集に活用してきたと伺っている。

ドローンは、災害時には大変有用なものとなっているが、ドローンの活用には運航等に

習熟した職員が不可欠である。そこで何う。人事異動があつても、防災用ドローンを適切に運用できるよう、職員への研修が必要と考えるがどうか。

防災対策課長 人事異動があつても防災用ドローンを適切に運用できるよう、研修を実施し、本庁及び各地域

振興事務所で複数の職員が操縦できる体制としており、令和6年度当初予算においても研修費用を計上し、ドローンを操縦できる職員の養成を図ることとしています。

川村議員 県だけではなく、消防本部においてもドローンを活用していると思うが、次に県内消防本部にお



2月予算委員会に登壇した川村博章議員

公共交通の課題への取り組み

川村議員 昨年12月に発表された「JRのダイヤ改正」では、京葉線の朝夕の快速廃止が大きな問題になり、連日騒ぎになった。

交通施策は日常生活に密

接に関わり、県民にとっても関心の高い分野であり、今後の街づくりや地域社会にも大きな影響を与える。こうした中、県では、令和6年度の組織改正において、

交通関係の担当部長と担当課長を新設することだが、今後、新たな組織体制で、様々な交通課題にどのような取り組みでいくのか、県民の期待は大きいものと思う。

るドローンの配備及び活用状況はどうか。

消防課長 令和5年4月1日時点で、県内31消防本部中21本部において、35機が配備されており、火災現場における状況確認や火災原因の調査、救助、捜索活動などに活用されています。

川村議員 県内の行政機関に配備されているドローンについて、災害時に効果的な運用をすべきと考えるが、どうか。

防災対策課長 大規模災害時には、災害対策本部において、ドローンの活用場所や目的を調整することとしており、消防等、他の機関が保有するドローンも含め、効果的な運用を図ってまいります。

ドローンの活用は、

要望 よりの確な災害対応につながらずと考えられるので、関係機関が連携して取り組むよう要望する。

川村議員 県のインフラ管理におけるドローンの活用

そこで何う。担当部長を新設するなど、来年に向けて交通部門の体制強化が図られたが、今後どのようなことに力を入れていくのか。

総合企画部長 公共交通のうち、鉄道については、ローカル鉄道を巡る議論、成田空港の機能強化に合わせた交通アクセスの充実、さらには

利用者の利便性の向上などに取り組んでいく必要がある。また、バスやタクシーについては、運転手不足などの問題を抱えており、地域の移動手段の確保に向けた取組が求められているところです。今後、県としては、強化された体制のもとで、公共交通

について、県の公共土木施設は多くの施設が更新時期を迎え、今後、急速に老朽化する施設を効率的、効果的に維持管理していく必要があると思う。

維持管理を確実に進めるためには、施設の現状を把握する巡視や点検が必要だ

県では、目視による確認が難しいインフラ分野のDXとして本年度からドローンを活用する予算が新規計上され、令和6年度当初予算にも引き続き計上されている。そこで何う。インフラ管理のために導入したドローンをどのように運用しているのか。

県土整備政策課長 県では今年度、県土整備部すべての出先機関に合計40機のドローンを配備いたしました。出先機関では、昨年9月の台風第13号接近に伴う大雨の際に、河川等の巡視や浸水状況の把握に使用したほか、道路工事の進捗状況を地元へ説明するため等に使用したところです。

川村議員 今年度から県土整備部のすべての出先機関にドローンを配備する。利用者の利便性の向上などに取り組んでいく必要がある。また、バスやタクシーについては、運転手不足などの問題を抱えており、地域の移動手段の確保に向けた取組が求められているところです。今後、県としては、強化された体制のもとで、公共交通

にドローンが備えられ、運用されていることだが、次にドローンの運用にあたっての課題や今後の活用について、どのように考えているか。

県土整備政策課長 導入したドローンは、小型で職員が手軽に操縦できるメリットがある反面、風の影響を受けやすいこと、飛行可能範囲が狭いことなどの機能的な制約があるほか、職員に対する研修環境の充実を図る必要もあります。

今後、より性能が高い機種を導入することや、職員の操作技術の向上を図ることとしております。

要望 ドローンを操縦できる職員が増え、目視困難な公共土木施設へのきめ細やかな巡視点検の実施など、今後も老朽化した公共土木施設の適正な維持・管理に努めていただくよう要望する。

川村議員 産業分野におけるドローンの活用を広めるために、どのように取り組んでいくのか。

経済政策課長 ドローンは今後さまざまな分野で活用が進んでいくものと考えて

利用者の利便性の向上などに取り組んでいく必要がある。また、バスやタクシーについては、運転手不足などの問題を抱えており、地域の移動手段の確保に向けた取組が求められているところです。今後、県としては、強化された体制のもとで、公共交通

に関する様々な課題に対応してまいります。

要望 京葉線のダイヤ改

おり、県でも、メンテナンス等での活用が期待される洋上風力発電分野において、関連産業の立地促進策を検討するための調査を新たに実施するほか、農業分野においても、農業散布や肥料・種まきなどに使用するドローンの導入支援などに取り組んでいます。

またドローンに特化した支援ではありませんが、新たな技術やアイデアを活用した実証実験や起業・創業生産性向上のための設備投資などについて相談支援や資金面での支援を行っており、ドローンを活用した事業についても積極的に後押ししてまいります。

要望 ドローンは、これまでの以上に様々な場面での活用が期待されることから、ドローンを活用した新事業の創出に向けた支援に、是非取り組んでいただきたいと思います。

また、こうした新たな事業の創造展開はこれまでになく斬新的なものになるかもしれない。先例やこれまでの常識にとらわれることなく、柔軟な対応と、全庁的対応を強く要望する。

また、鉄道だけでなく、バスやタクシーも運転手不足など、様々な課題を抱えている。今後、県民の移動手段の確保について、市町村や事業者と連携して取り組んでいただくよう要望する。

また、バスやタクシーも運転手不足など、様々な課題を抱えている。今後、県民の移動手段の確保について、市町村や事業者と連携して取り組んでいただくよう要望する。

また、バスやタクシーも運転手不足など、様々な課題を抱えている。今後、県民の移動手段の確保について、市町村や事業者と連携して取り組んでいただくよう要望する。

また、バスやタクシーも運転手不足など、様々な課題を抱えている。今後、県民の移動手段の確保について、市町村や事業者と連携して取り組んでいただくよう要望する。

また、バスやタクシーも運転手不足など、様々な課題を抱えている。今後、県民の移動手段の確保について、市町村や事業者と連携して取り組んでいただくよう要望する。

また、バスやタクシーも運転手不足など、様々な課題を抱えている。今後、県民の移動手段の確保について、市町村や事業者と連携して取り組んでいただくよう要望する。

花見川のかわまちづくり計画を進めよ

川村議員 千葉市花見川区の中央部を南北に流れる印旛放水路は、地元では花見川と呼ばれ、上流部の新川と共に、印旛沼から東京湾を結ぶ緑豊かな河川である。

花見川は、散歩や釣りなどのほか、カヤックやサイクリングにも利用されるなど、多くの方々に利用されている。また、花見公園の周辺には桜並木が広がり、市民の憩いの場となっている。

千葉市では、河川を活用したまちづくりを推進するため、佐倉市、八千代市と共に「印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画」を策定し、昨年8月24日に千葉市役所にて、その計画登録証伝達式が行われ、2月15日に「千葉うみさ」とライン「プロジェクト」開始の新聞発表があった。

この計画では、それぞれの市において水辺拠点を整備し、沿川の賑わいを高めていくこととしています。

川村議員 「印旛沼印旛放水路かわまちづくり計画」における千葉市域の整備内容はどうか。

河川環境課長 千葉市域では、水辺拠点として、花見公園周辺において、釣りやカヤックなどが楽しめる拠点の整備を行うこととしており、千葉市が、船着場や駐輪施設、休憩施設等の整備を行い、県が水辺に近づくことができる親水護岸を整備する計画としています。

この計画が着実に推進されるよう、千葉市と連携して押し進めていただくよう要望する。

また、花見川を訪れる方々が快適に過ごすことが出来るように、除草などの維持管理にも努めていただくよう併せて要望する。



県執行部の答弁を聴く川村議員

特別支援学校の新設

川村議員 県立特別支援学校における過密状況の解消は、本県にとって大きな課題であり、県教育委員会では、八千代特別支援学校及び千葉特別支援学校の過密状況解消を目指し、「第3次県立特別支援学校整備計画」に基づき、新設校の設置に係る準備を進めてきた

と伺っている。

このたび、令和6年度当初予算案で旧千葉市立花見川第二中学校を活用した新設校設置に伴う実施設計等の経費が計上された。

そこで伺う。旧千葉市立花見川第二中学校を活用した特別支援学校の新設について、開校に向けた進捗は

どうか。

特別支援教育課長 当該中学校跡施設を活用した特別支援学校の新設については、令和9年度の開校を目指して、本年度から実施設計を行っているところであり、来年度には完了する見込みとなっています。

川村議員 学校を新設するにあたっては、地域の理解も重要であると考えます。また、学校と地域が連携することにより、子ども達の学びの幅が広がることも、地域の方々も新しい人との繋がりが生まれ、地域の教育力が向上することなどが期待される。

そこで伺う。当該地区に特別支援学校を新設することについて、地域説明の状況はどうか。

特別支援教育課長 新設校の概要については、昨年8月及び9月に関係特別支援学校の保護者を対象に、また、11月に花見川中学校及び天戸中学校の通学区域における自治会の地域住民の方を対象に、説明を行ったところですが、今後とも、保護者及び地域住民の方を対象に、丁寧に説明を行ってまいります。

今後、地域の声をよく聴き、引き続き、計画どおりに整備を進めていただきたいと思います。

川村議員 建設期間中に川村議員 建替期間中に

川村議員 建替期間中に

川村議員 建替期間中に

川村議員 建替期間中に

柏井浄水場の設備増強工事

川村議員 先の12月議会の一般質問において阿井議員から企業局県営水道が実施している「非常用自家発電設備の増強に関する、全体の進捗状況を質問された。

私自身も、先月1月26日に柏井浄水場の施設見学をさせていただき、実施中の非常用自家発電設備増強工事を見てきた。

柏井浄水場が県営水道全体の約4割の給水能力を有する基幹機場であり、また、地元住民にとっては自然災害などが発生した際の給水

柏井浄水場では、1日平均給水量を72時間継続して供給するための発電容量の増強と燃料タンク増設工事を実施することとしており、

令和6年度予算額は、約33億7千万円を計上しております。

交番機能の維持を

川村議員 千葉警察では令和6年の活動方針として安全安心を実感できる

くらしの実現を重点目標にしている。と伺っているが、各地域における県民に寄り添った警察活動は管内治安の維持に大きな役割を果たしている。と伺っているが、

各地域における県民に寄り添った警察活動は管内治安の維持に大きな役割を果たしている。と伺っているが、

各地域における県民に寄り添った警察活動は管内治安の維持に大きな役割を果たしている。と伺っているが、

各地域における県民に寄り添った警察活動は管内治安の維持に大きな役割を果たしている。と伺っているが、

●県政・市政に関するご相談・ご意見・ご提案などお気軽にご連絡下さい。

川村ひろあき 事務所

〒262-0005 TEL 043-250-1021

千葉市花見川区こてはし台3-13-4 FAX 043-250-0071